

利用促進部会について

1. 目的

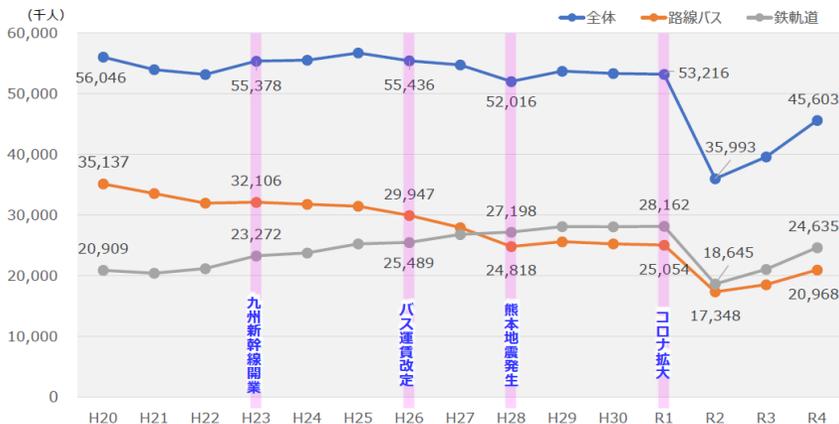
- 過度な自動車依存から脱却し、市民の皆様にとって利用しやすい公共交通体系の構築に向け「**公共交通機関を利用してもよいと思う人を増やすこと**」
「市民の皆様が、自動車や公共交通機関をバランスよく利用しながら、**本市内外をシームレスに移動できるよう下支えすること**」につながるソフト面の施策に関する検討を本部会で行う。



2. 現状・課題

- 公共交通利用者数については、回復傾向にあるが、**コロナ禍前の水準までは回復していない。**
- 公共交通利用のきっかけづくりの一環として、「バス・電車無料の日」を実施したところ、その日の利用者数は**通常の1.5倍～1.8倍あった。**
- バス・電鉄電車は令和7年度から、市電は令和8年度から、ICカード読取機器の更新を控えており、それに伴い**現在の決済手段から変更が生じる。**

新しい決済手段を活用した利用促進策を講じ、公共交通の利用者増を狙う。



▲本市における公共交通利用者数

3. 今年度以降の取組

- 令和4年度から実施している「バス・電車無料の日」、令和6年2月に実施した「バス・電車100円ウィーク」の検証結果を踏まえ、今後の料金施策について検討を行う。
- 市電における決済手段の方向性について、検討を行う。
- その他、公共交通の利用促進に資する取り組みについて、検討を行う。

◇公共交通の利用促進策（まちなかフリーパス）

令和6年度の取組

- **まちなかフリーパスの導入** 実施実験方式
- 中心市街地の回遊性向上を図り、公共交通利用者の増加等を目的とした、まちなかフリーパスの実証実験を実施する。

<実施イメージ>

対象エリア：180円均一エリア（右図参照）
対象日：土日祝日のみ
対象交通機関：路線バス
券種：デジタルチケット
販売金額：300円（小学生以下2名まで無料）



▲路線バス180円均一エリア

■令和6年度予算

まちなかフリーパス等実証実験経費
24,000千円

■今後の展開（案）

【令和6年度】
路線バスを対象に、まちなかフリーパスの実証実験を実施

【令和7年度以降】
令和6年度の成果を踏まえ、市電やシェアサイクル、商業施設などと連携した取組を展開

◇市電の決済手段について

- 市電は、全国交通系ICカードの保守期限を令和8年3月に迎える
- 全国交通系ICカードの更新費用が高額であることから、バス事業者や県・市等と利便性・経済性・将来性の観点で、個々の事業者で結論を出すのではなく、熊本市圏における公共交通の決済環境統一を目指して検討してきた
- その結果、クレジットカードのタッチ決済とくまモンのICカードを主な決済手段とする新端末・新システムで決済環境を統一することとした

【現在】			【令和8年4月以降】		
決済の種類	利用	決済環境	決済の種類	利用	決済環境
全国交通系ICカード	○		全国交通系ICカード	×	ニモカシステムは廃止 ⇒10カードの利用は終了（ニモカ定期も終了）
くまモンのICカード	○		くまモンのICカード	○	継続
タッチ決済	○		タッチ決済	○	継続
QRコード決済 ※PayPay等	○		QRコード決済 ※PayPay等	○	継続
くまモン! Pay	×	なし ※未実装	くまモン! Pay	NEW	※2/4 開始予定
QRコード認証	×	なし ※未実装	QRコード認証	NEW	○

事業費 約1.1億（税抜）
※全国交通系ICカードの更新費は約2億（税抜）

■ 現時点では本方向性が望ましいと考えているが、本部会等での議論、また、今後実施するアンケート調査等の結果から見極めていく。